

2015 FORMULA 4 CHAMPIONSHIP Paddock NEWS

国内唯一、開発競争のあるフォーミュラカテゴリーF4の魅力 Vol.1



開幕戦、第2戦ともに8台の出走となったが、東日本シリーズは粒がそろったドライバーばかり。牧野、根本といった注目される若手だけでなく、チャンピオン経験もある加藤正将、12年のF4日本一決定戦覇者である中山雅佳、さらには経験豊富な加藤智、佐々木祐一、小倉可光、昨年岡山でスポット参戦したSYUJIらが参戦している。SUGO、富士とサーキットが移っていくなかで、勢力図はどう変わるのか。



最後尾から追う根本
 続く東日本シリーズ第2戦の舞台ももてぎで、まったく変わらぬ顔ぶれがそこには並んでいた。ひとつ違ったのが、牧野がレースウィークに入ってから季節外れのインフルエンザにかかってしまい、体調不良のままサーキット入りせざるを得なかったことだ。「つらそうです。最初の

昨年度に設定されていたFCクラスを戦い、4勝した18歳のドライバーである。予選ではこのふたりだけが1分51秒台に乗せ、コンマ1秒差で牧野がポールポジションを獲得。「セクターベストをつなぐと、もう少しタイムが出ているのですが。スタートさえ決まれば、たぶん大丈夫です」と牧野が言えは、「コーナーの脱出が1km/h違うとかそれぐらいの差ですから、決勝は必ずいい勝負になると思います」と根本。互いに意識し合っているだけに決勝でも激しく火花を散らし合う様子が目に浮かんだ。
 しかし、その決勝で牧野や根本以上の好スタートを決めたのが、予選3番手の加藤智だった。抜き去るまでには至らなかったが、びたりと食らいついて1周。その後は次第に離されていった加藤智ながら、後続に対しては充分すぎる間隔を築いていた。一方、牧野と根本のバトルも4周目で決着がつき、そこから先は牧野のひとり舞台となっていた。「スタートは良くなかったんですけど、根本選手も良くなかったみたいですね。動き始めてからは何も問題なく、ずっと自分のペースで走ることができました」と牧野。4位は中山雅佳、5位は加藤正将、6位は佐々木祐一が獲得した。

EAST SERIES ROUND 1

●3月15日 ●ツインリンクもてぎ ●くもり/ドライ ●12周

Pos	No	Class	Driver	Machine	Type	Time/Gap
1	11	A1	牧野任祐	DODIE・制動屋・ルーニー	KK-ZS	22'40'432
2	14	C	根本悠生	GUNZE ZAP F108	ZAP F108	+1'796
3	10	C	加藤 智	FEEL・RK01・TODA	RK-01	+4'493
4	3	C	中山雅佳	HITACHI BM RK01	RK-01	+29'119
5	51	A2	加藤正将	ブライルバッテリー・マース006	WEST006	+32'605
6	4	C	佐々木祐一	仙台DayDream☆F108	ZAP F108	+35'310
7	17	C	小倉可光	チームNATS・OAC・090	MC090	+48'134
8	27	C	SYUJI	B-MAX-RK01・TODA	RK-01	+1'15'931

EAST SERIES ROUND 2

●4月12日 ●ツインリンクもてぎ ●くもり/ドライ ●12周

Pos	No	Class	Driver	Machine	Type	Time/Gap
1	11	A1	牧野任祐	DODIE・制動屋・ルーニー	KK-ZS	22'46'181
2	14	C	根本悠生	GUNZE ZAP F108	ZAP F108	+3'098
3	10	C	加藤 智	FEEL・RK01・TODA	RK01	+12'376
4	51	A2	加藤正将	ブライルバッテリー・マース006	WEST006	+26'540
5	4	C	佐々木祐一	仙台DayDream☆F108	ZAP F108	+40'448
6	3	C	中山雅佳	HITACHI BM RK01	RK01	+45'885
7	17	C	小倉可光	チームNATS・OAC・090	MC090	+46'689
以上規定周回数完走						
27	C	SYUJI	B-MAX-RK01・TODA	RK01	+1'15'931	

2015年 東日本&西日本レース日程

●東日本シリーズ		●西日本シリーズ	
Rd	開催日	開催日	サーキット
R1	3月15日	R1	5月10日
R2	4月12日	R2	6月27~28日
R3-4	5月23~24日	R3-4	7月26日
R-5	9月26~27日	R5	10月18日

●日本一決定戦

Rd	開催日	サーキット
特別戦	12月5~6日	鈴鹿サーキット

走行ではタイムもあまり出ていませんでしたから」とスタッフも心配そうに語る。しかし、まだ17歳とあって回復も早かった。日曜日になって予選を迎えると、序盤こそ根本に遅れを取ったが、やがて逆転を果たして、ひとり51秒台に入れて連続ポールポジションを獲得。
 「だいぶ体調は良くなりました。かえって力が抜けて、良かったのかどうかは……(笑)。レコードを狙っていて、途中で出そう感じたのに、思いっきりミスしてしまいました」と牧野は、今回も首位を奪っただけでは納得できなかった様子だった。2番手の根本以下、予選順位は第1戦と同じ。だからこそ根本にはスタートで絶対に出たい、という思いがあったのだろう。力みすぎてエンジンストールさせてしまう。
 またも加藤智が好スタートを決めていったのはトップに立つが、牧野は4コーナーまでに逆転。「最初の3周だけブツ



牧野、根本、加藤と表彰台は第1戦、第2戦ともに同じ顔ぶれ、並び順も変わったが、そのレース内容はまったく違った。第3戦以降も牧野を中心にトップ争いが展開されそうだ。

FORMULA 4 EAST SERIES R1-2 REPORT

17歳の巨人。

10代とジェントルマンドライバーの真剣勝負が魅力のF4 今年も東日本から開幕して、熱戦が展開されている注目はやはり17歳の牧野任祐。東日本を席巻している

Text: はた☆なおゆき (Naoyuki Hata)
 Photo: 佐々木純也 (Junya Sasaki) / 高木翔子 (Shoko Takagi)

今年最初のレースとして行なわれたのは東日本シリーズの開幕戦だ。ツインリンクもてぎのピットにお馴染みのマシンが並ぶなか、一際目を吐いていたのがまだ10代の牧野任祐と根本悠生だった。ふたりとも厳密に言えばルーキーではなく、牧野は昨年の西日本シリーズに2戦出場、第2戦はマシントラブルでリタイアしてしまっただけで、第1戦で優勝。根本は

シユして、あとは流して。というのは、ギャに渋い感じもあったんです」だとも言う。根本は1周だけで最後尾から4番手に上がるも、牧野には及ばず。せめてもの抵抗として、ファステストラップを記録し、「レースペースは悪くなかった」と次回以降の逆襲を誓っていた。
 第1戦に続いて加藤智が3位で、4位の加藤正将はA2クラスで連勝。だが、喜びよりも1台のみのエントリーを憂いていた。「エンジンは2リではなく、あえて壊れにくい1・8リの方で出ている。僕が頑張ってる総合でも上位につけることで、眠っているアルミのクルマでまた出ようと思ってくれる人が現れれば」と、ゴールデンウィーク明けには西日本シリーズも鈴鹿で幕を開け、東日本シリーズもSUGO(第3・4戦のダブルヘッダー開催)に舞台を移す。どんなドラマがあるのか待ち遠しい。



第2戦、スタートダッシュを決めたのは加藤智だった。1コーナーまでにトップを奪い、4コーナーまでは牧野をしたがえて走った。